

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

北朝石窟寺院の研究Ⅱ

Studies on the Buddhist Cave-temples in the Northern Dynasties Ⅱ

2. 研究代表者氏名

岡村 秀典

Hidenori OKAMURA

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(1年目)

4. 研究目的

中国山西省にある雲岡石窟は、5世紀の北魏時代に開鑿の始まった仏教寺院である。1938年から1944年までの7年間、人文研の水野清一と長廣敏雄らは、その大小すべての石窟を対象に測量・写真撮影・拓本を作成し、戦後にその報告書『雲岡石窟』全16巻32冊を公刊した。そのPDFを京都大学リポジトリに公開した結果、各界から大きな反響が寄せられ、なかでも中国から中国語版の出版について打診があり、人文研と中国社会科学院考古研究所との共同編集により旧版の中文訳に加えて旧版未収録の写真・拓本類を増補した『雲岡石窟』全20巻を出版しつつある。これをふまえて本研究班では、龍門石窟や響堂山石窟など北朝石窟にかんする人文研所蔵写真・拓本類の整理と公開を継続して進める。

The Yungang Caves, located near the city of Datong in Shanxi province in China, are a group of Buddhist cave-temples excavated in the latter half of the fifth century by the Northern Wei dynasty. Between 1938 and 1944, following on from investigations of the Xiangtangshan Caves in Hebei province and the Longmen Caves in Henan province, the Research Institute of Oriental Culture, the predecessor of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University, carried out investigations of the Yungang Caves and neighboring sites. A report of these investigations was published in the form of the voluminous Yunkang (1951-1956) in 16 volumes and 32 fascicules by Mizuno Seiichi and Nagahiro Toshio. This research seminar set about researching on the visual materials and field notes collected from such investigations with the goal of systematically digitizing and

actively promoting the further use of these research resources, and making them available to the public.

5. 本年度の研究実施状況

前の研究班に引きつづき中国山西省大同市に所在する雲岡石窟の原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全十六卷三二冊、一九五一～一九五六年）の図版解説を会読しながら、関連写真の整理を進めた。今年度は京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』第二〇卷（科学出版社東京、二〇一七年）の研究成果をもとに、原報告の第十五卷西方諸洞について検討した。共同研究に関連した公表実績としては、岡村秀典著・徐小淑訳『雲岡石窟的考古学研究』（四川人民出版社、二〇二一年、原著『雲岡石窟の考古学 遊牧国家の巨石仏をさぐる』京大人文研東方学叢書3、臨川書店、二〇一七年）および 石松日奈子著・王雲訳「雲岡石窟の皇帝大仏—從鮮卑王到中国皇帝」（『故宮博物院院刊』二〇二一年第一期、原著「雲岡石窟の皇帝大仏—鮮卑王から中華皇帝」『國華』一四五一号、二〇一六年）がある。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、研究会はZOOMにより共同研究室でのオンラインとオンラインのハイブリッド形式で実施した。オンラインでは参加のむずかしい中国や東京など遠隔地の研究者がオンラインで参加できたのは意義深いことであった。

6. 本年度の研究実施内容

2020-10-06 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2020-10-20 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2020-11-17 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2020-12-01 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典
2021-01-19 雲岡石窟西端諸洞 発表者 岡村秀典

7. 共同研究会に関連した公表実績

岡村秀典著・徐小淑訳『雲岡石窟的考古学研究』（四川人民出版社、二〇二一年）石松日奈子著・王雲訳「雲岡石窟の皇帝大仏—從鮮卑王到中国皇帝」（『故宮博物院院刊』二〇二一年第一期）

8. 研究班員

所内

岡村秀典、安岡孝一、稲本泰生、向井佑介、檜山智美、倉本尚徳、常鈺熙

学内

内記理(文化財総合研究センター)、折山桂子(文学研究科)、

学外

高橋早紀子(愛知学院大学)、外山潔(泉屋博古館)、齋藤龍一(大阪市立美術館)、山名伸生(京都精華大学)、大西磨希子(佛教大学)、石松日奈子(清泉女子大学)、濱田瑞美(横浜美術大学)、佐藤智水(龍谷大学)、田林 啓(白鶴美術館)、上枝いづみ(金沢大学)、高志 緑(大阪大学)、王珏人(大阪大学)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	1	8	1	2	0	0	33	3	5	0	0
		(2)	(1)	(1)	(0)	(0)	(8)	(3)	(5)	(0)	(0)
国立大学	2	3	1	2	1	1	15	5	10	5	5
		(3)	(1)	(2)	(1)	(1)	(15)	(5)	(10)	(5)	(5)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	8	8	0	0	0	0	24	0	0	0	0
		(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0										
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	2	2	0	0	0	0	10	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	4	4	2	2	2	1	5	5	5	5	5
		(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)
その他	0	0					0				
計	17	25	4	6	3	2	87	13	20	10	10
		(11)	(4)	(5)	(3)	(2)	(51)	(13)	(20)	(10)	(10)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

なし

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月日	論文名	発表者名
故宮博物院院刊	1	2021. 1	雲岡石窟的皇帝大佛	石松日奈子

共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
中国文明 農業与礼制的 考古学 (中国語版)	岡村秀典	2020. 9	上海古籍出版社

雲岡石窟的考古学研究 (中国語版)	岡村秀典	2021. 1	四川人民出版社
----------------------	------	---------	---------

11. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

12. 次年度の研究実施計画

引きつづき中国山西省大同市に所在する雲岡石窟の原報告（水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』全十六卷三二冊、一九五一～一九五六年）第十五卷「西端諸洞」の図版解説、および京都大学人文科学研究所・中国社会科学院考古研究所編『雲岡石窟』第二〇卷（科学出版社東京、二〇一七年）の研究成果をもとに、洛陽遷都後の雲岡石窟について検討する。また、前期には米国フロリダ国際大学の Lidu YI 氏を招聘し、北朝石窟寺院について六回の連続セミナーを計画している。

新型コロナウイルス感染症の影響が読めない中、研究会は ZOOM により共同研究室でのオンラインとオンラインのハイブリッド形式で実施する予定である。東京など国内の遠隔地や海外の研究者も参加できるため、共同研究のネットワークを広げる試みにも取り組んでみたい。

13. 次年度の経費
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』（座右宝刊行会、1941 年）の中国語版を中国鄭州の大象出版社から出版する準備を進め、本学との間で出版契約を締結したほか、岡村秀典『雲岡石窟の考古学』（臨川書店、2017 年）の中国語版について四川人民出版社との間で出版契約を締結し、2020 年の刊行をめざしている。東京大学東洋文化研究所と協力して 100 年前の中国石窟写真を集大成した『中国文化遺産』石窟卷（中国語版全 5 卷）の執筆・翻訳と編集を進め、2020 年に清華大学出版社から刊行する予定である。